

千曲川・犀川流域を対象としたタイムライン検討会

議事要旨

平成28年3月18日（金） 14:00～16:00

長野県自治会館2階

【出席機関等】

菊池座長、秦委員、豊田委員、長野地方气象台、北陸信越運輸局長野運輸支局、関東地方整備局長野国道事務所、北陸地方整備局河川部、北陸地方整備局千曲河川事務所、長野県危機管理部危機管理防災課、長野県建設部河川課、長野県警察本部警備部警備第二課、長野市総務部危機管理防災課、長野市建設部、長野市消防局、東日本旅客鉄道株式会社長野支社、東日本電信電話株式会社長野支店、東日本高速道路株式会社関東支社長野管理事務所、中部電力株式会社長野営業所、長野都市ガス株式会社、しなの鉄道株式会社、長野電鉄株式会社、アルピコ交通株式会社長野支社 長野市自主防災組織代表

【議事の概要】

- 千曲川・犀川流域を対象としたタイムラインに係るワーキンググループ検討結果について事務局より報告が行われ、その検討成果として長野市洪水タイムライン(案)の概要と各機関の防災行動及び今後の課題事項について報告が行われ、検討成果が了承された。
- 今後の予定について、事務局より案が示され、案の通り承認された。

【意見等】

■開催に当たって

○長野市長

本日は第二回の千曲川・犀川流域を対象としたタイムライン検討会に座長をはじめ関係の皆様には年度末の大変忙しい中ご出席を頂き、御礼を申し上げます。

また、ワーキンググループの検討にご参加頂いた皆様におかれましては、長野市のタイムラインの策定のために大変なご尽力を頂いたこともお礼を申し上げます。

昨年の9月には、鬼怒川の堤防が決壊し、その際には水没した家屋や孤立住民が多数発生し、また、ヘリによる救助が多数行われるなど、わたし共、長野市にとっても、大変な大きな勉強にもなった被災事例でした。長

野市の市議会でもこのタイムラインに関する質問等もあったことを踏まえ、水防等の事前の計画、適切な体制など、社会全体で備えていく必要があると考えています。

今後の長野市の地域防災計画及び水防計画の見直しにあたり、このタイムラインとの整合性を図りつつ、被害の最小化を図りたいと考えています。

今、桜の開花がどんどん進んでおりますが、この時期が終わりますと、また出水期となります。このタイムラインが発動しないことを願っておりますが、万一の場合には、この検討会を通じてタイムラインに定められた防災行動の実施に関して、関係機関の皆様のご理解とご協力をお願いをしなければなりません。改めて、本日のこの検討会に対する感謝の意を申し上げます。わたくしのご挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

○北陸地方整備局河川部長

昨年9月の関東・東北豪雨をうけ、国土交通省の緊急行動の取り組みとしてトップセミナーの開催や共同点検などの取り組みを進めてきました。

この緊急行動に関して長野市をはじめ多くの関係機関の皆様にご協力を頂き感謝申し上げます。また、昨年12月には社会資本整備審議会より水防災意識社会を再構築する必要があるという答申が示されており、本日お配りの参考資料にもあるように、本検討会のタイムラインの取り組みも重要な取組として位置付けられています。今回、第一段階として計画規模降雨の洪水を対象としたタイムラインについて座長はじめとした有識者の皆様及び関係機関の皆様のご協力を頂き、とりまとめられたことに対し改めて感謝申し上げます。今後、出水期のタイムラインの運用を通じていろいろ課題も見えてくることとなりますが、本検討会がきっかけとなり、関係機関が連携した水害対応が行われることを期待しております。また、長野市タイムラインが長野市内の洪水被害軽減に役立つことはもちろんのこと、他の市町村の手本となるようことを祈念いたしまして、わたくしのご挨拶とさせていただきます。

■長野市洪水タイムラインの検討について

○秦委員

参加者の皆様、本当にご苦勞様でした。東日本大震災など大規模災害を踏まえて、中央防災会議等では、従来、経験改善型であった防災対策から目標達成型への転換が必要といわれています。その意味で、タイムラインの取り組みは画期的な取組といえるものであり、特にタイムラインの中に

は住民避難やドライバーへの情報提供まで言及されており素晴らしい内容になっている。一方で、立退き避難のエリアにある福祉施設について課題となっていたように、こうしたエリアに新規に立地する場合は課題が多いため、施設側でも適切な対応が求められることが明らかになったといえる。

○豊田委員

気象や水位の予測には限界があることから、事前に定めた防災行動をタイムラインに沿って実施するという事を考えることができたこと自体が重要な取組であったといえる。ただし、今後は、自然は常に想定を超えることがあるという点を、頭の片隅に置きながら、さらに検討を深めていければよいと考えています。さらに、長野に住む者として、今後は土砂災害なども踏まえて検討を深めていければよいと考えています。

○菊池座長

タイムラインが上手くいかないという場合も考えておく必要があると思います。タイムラインでは他の機関がどのような防災行動を行っているかが一覧できることがメリットではあるが、防災行動としてタイムラインに記載の用語が各機関の伝統の中で通じる用語になっていて、場合によっては、他の機関にとっては意味が通じにくい、誤解をまねく表現になっていないかという観点も踏まえつつ、今後は検討を深めて頂ければと考えます。

○北陸地方整備局河川部

タイムラインがプルダウンで絞り込みができるようになっている点は素晴らしいのだが、例えば、市長が長野市の防災行動の全体を確認することは可能か。さらに、垂直避難と屋内安全確保と同じことを言っているので、用語を統一したほうがよい。

⇒事務局

現状は長野市の各部ごとの絞り込み機能であるが、長野市だけの防災行動を絞り込みで確認できるようにしたい。また、用語統一については、そのように修正したい。

○東日本高速道路(株)

東日本高速道路(株)では雨量を通行止め等の対応を判断する基準としており、基準水位のどのタイミングが自機関の基準に該当するのか判断が難しかった。さらに、長野市での検討ではあったが、通行止めを考えた場合、もう少し別の地域で通行止めのエリアを考えるなど、別の地域も含めた被

災シナリオの設定が必要ではないかと感じた。

⇒座長

道路交通については、道路管理者、警察等複数の機関が連携して対応化必要な防災行動となるため、今後は、ご指摘の観点も含め関係機関の議論を深めていきたい。

⇒事務局

高速道路の出口の通行止めについてご意見を頂いたが、次回のワーキングでは、高速道路の出口に対応した水位観測所の水位設定もお示しして議論をして頂けるようにしたい。

○事務局

今後の課題で示した「道路管理者間の調整が必要」という点について、事務局としてはワーキングの中で調整協議を行うようにしたいが可能か。

⇒長野国道事務所

道路管理者間の調整については、ワーキングではなく、各道路管理者で集まって個別に話し合った方が適切と考えている。

■今後の予定について

○豊田委員

3つの水位観測所ごとに作成しようとしていたタイムラインを1つの形式にまとめた結果となったが、実際の運用ではどのようになるのか。ロールプレイング訓練で運用を確認していくことになるのか。

⇒事務局

現状のタイムラインのまとめ方で問題なく運用できるのか、あるいは運用上の混乱が発生しないかどうかは明確になっていないため、ロールプレイング訓練で運用上の課題を確認したい。

○長野県危機管理部

想定最大規模の浸水想定公表について、公表の仕方を教えて頂きたい。4月以降に市町村に対する説明があるということか。市町村への説明に当たっては、適切かつ丁寧な説明をお願いしたい。

⇒事務局

まずは、市町村への事前説明を行うこととなっており、その後、県及び市町村へ北陸地方整備局から浸水想定区域図の図面の公表が通知される。

事前説明は3月中に予定している。段階を踏んだ事前説明として、適切に対応したい。

○菊池座長

今後、想定最大規模の浸水想定に基づきタイムラインを検討していくことになるが、ハザード設定はタイムラインの時間軸にも影響を与えることになるのか。

⇒事務局

想定最大規模の洪水波形については精査中であるが、確定した段階でタイムラインの時間軸の見直しが必要な場合には、そのように対応したい。

○秦委員

新たな防災行動が99個増えたことになっているが、どのような防災行動が増えたといえるのか。

⇒事務局

タイムライン上は赤文字で示している防災行動が新たな防災行動として追加されたもので、避難判断水位以降のタイミングで新たな防災行動が多く追加されている傾向があると考えている。

○座長

今後は、ロールプレイング訓練でタイムラインの課題を明らかにし、問題点があれば改善するというところを目指したい。

■閉会にあたり

○千曲川河川事務所長

この度は、有識者の皆様のご指導を頂き、また関係機関の皆様の熱心なご審議により計画規模降雨の洪水を対象とした長野市洪水タイムラインをとりまとめられたことを改めまして厚く御礼申し上げます。今後は、想定最大規模のハザード設定に基づいたタイムラインの見直しが必要になってきますが、タイムラインの防災行動にどの程度影響が出てくるかについては、今後、引き続きご検討頂きたいところでございます。冒頭、長野市長のご指摘にもありましたように本格的な台風シーズンの前に台風が来る可能性もあります。今回のタイムラインについては各機関の中でも共有して頂き、いざという時にも対応がとれる体制として頂きたいと思っております。また、来年度も、本検討会は継続してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。簡単ではありますが、以上で閉会の挨拶とさせていただきます。本日はまことにありがとうございました。

<以上>